

研究主題：全員参加型の授業づくり
～ すべての子どもの学びを保障する授業づくり ～

校内授業研究会

校内研究個人テーマ：「互いに聴き合い、共に学び合う授業づくり」

- (1) 単元名：テーマを決めて、本を紹介しよう。
- (2) 教材名： こんぎつね 新美南吉 《教育出版》
- (3) 単元目標：人物の気持ちや場面が移り変わる面白さを読み、読書の世界を豊かにする。
- (4) 本時の目標：ごんの心情を読み取る。



【授業者より】



「こんぎつね」は、情景描写や人物の心情の変化などが的確に表現されている作品である。授業においては、叙述をもとにして登場人物の気持ちの変化、情景などの想像したことを交流することによって、互いの感じ方の違いに気づかせる学習を展開させたい。本時はクライマックス場面の読みを深める学習である。「ごんの思いは兵十に伝わったのか」、「ごんの償いは報われたといえるか」など、発問の切り返しを工夫しながら次時の「クライマックス場面でもっと大きく変化したことは何か」に迫りたい。そして、児童には学習全体を通して、「一度っきりの読みでは読めていないこと、見えていない言葉がある」という体験をさせ、読書の面白さを味わわせたい。

授業では、自分の思いを安心して伝え合うことができる雰囲気づくりに努める。そして、話を聴くさいには自分の考えと友達の考えを比べながら聴き合い、児童各々の考えを深めたり広げられるようにしたい。さらに、子ども同士の学びの深まりを大切に、教師側からの発言は可能な限り最小限の発問にとどめて、授業のファシリテーターとなり、子どもの声を「聴く、つなぐ、もどす」授業実践を心がけたい。

子ども同士、子どもとテキストのそれぞれのつながる姿や、そこに働きかける教師の姿(主として声かけ)児童の思考や対話がアクティブになる瞬間にアンテナを張って観てもらえたら有難いです。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。(T:)は教師の発言

【読む】 授業開始から1分、授業者は言葉少なに前時の授業を振り返る。

T: ごんは、どんなきつねだったの? → 子ども達: いたずらなきつね。さみしいきつね。遊びたい。

T: ごんは6回もつぐないをしました。どうして6回も? → 子ども達: びつびつ反応する。

・・・まだごんの心を読めてない気がするの。じゃあ「どうして6回も」について考えながら読んで見ましょう。どうぞ!



授業の入りがいい、何よりも余計な言葉がなく、「読む」という行為にも目的を持たせてテキストと向き合わせる。



ここでの読みは、スラスラ読むことが目的ではない。人物の言葉や情景から作品のそれぞれの場面を描きながら読むことである。

授業者の言葉が簡単に子ども達の

心へ届く、日常の教師と子ども達の関係や日々授業者としての授業づくりが伺える。読みも様々である。それぞれの読み方が認められて安心して読み入る子ども達。すばらしい!書かれていないことを読む。見えない心を読む。子ども達の「作品の味わい方」がそこに隠されている。

【聴き合う】 最初の読みが終わるとすぐにグループでの学び合いに下ろした。・・・話し合いでなくまさに聴き合うのである。この時点で一人も学び合いに入れない子が見あたらない。4人がしっかり向き合って互いの読みを聴きあっている。今日だけやろうとしてもできることではない、これも日常の授業者の営みである。「なぜ6回も?」子ども達の読みが子ども達の言葉で交流する。(広がる・深まる)



リカ: ごんは自分がおっかあを死なせてしまったと思い込んでいて、まずはそのつぐないをしなければと思って6回もつぐないをした。6回目で死んでしまったけど、本当はずっと続けるつもりだったと思う。(本当は...思う。→「見えない心を読む」)

ケイカ: ごんはつぐないのために、いたずらや悪さをするひまもなかったと思う。償うことに熱中になる。



[対話の抜粋]

T: ごんはいたずらを反省して、つぐないをした?(子どもの発言をつなぐ) →全体で共有する
 ト: ごんのいたずらは、ごんはさみしいから、相手をしてほしいからちょっかいをだしているんだよ。
 ナハ: ...いたずらばかりしていたごんが、つぐないをしているうちにどんどんいい子になっていく。
 タイ: ごんは兵十が笑顔になることがしたかった
 ナル: これは、笑顔にしたいとやっているんじゃないで、つぐないとしてやっている?
 周囲のつぶやき:「それもあるけど」、「やっぱり笑顔がみたい」、「どっちも...」
 T: 笑顔も見たいし、つぐないもしたい?...ごんはどうして兵十に笑顔になってほしいの?→個へつなぐ
 ◎授業者はとにかく子ども達の声をしっかり聞いて、テキストと仲間に「もどす」行為を何度も繰り返す。
 「子どもの疑問は子どもに預けるが鉄則」子ども達も自分たちで考えたいのである。

[聴き合うクラス] 仲間の発言を大切に聴いてあげられる仲間は、その行為自体が発言者を支えることになる。

このクラスで絶賛されることは、みんなが「仲間の話を聴き上手」であるということである。
 聴いてもらえることがどれほどの安心につながるのか。手本は教師。



[学びのネタ①] T: 1回目のつぐないと、6回目のつぐないの違いは何?
 授業者は、2枚の挿絵のごんの様子からもう一度場面読みを指示し、ごんの心の動きについて話し合うようにテーマを下ろした。
 男の子: 最初は盗んだいわしを放り込んでいたが、クリやマツタケは自分で取ってきて丁寧に置いているから、「つぐなう」ことが当たり前になっている。
 ケイカ: ごんはクリやマツタケを置いているのは自分だと分かってほしいと思っている。教科書に「ひきあわない」って書いているから。
 女の子: かためて置いているということは丁寧に、1回目は放り投げて、しかも兵十までたたかれていたさ...だから丁寧に思ったんじゃない。



[学びのネタ②] T: (ごんと兵十とゴンの関係について) 二人は友達なの?
 ごんはいたずらぎつね、おっかあを死なせてしまったと思っている、つぐないをこっそり続ける。6回までやったところで兵十に打たれて死んでしまう。なぜごんはそこまで兵十に償うのか「二人の関係」についてテーマ②を下ろした。
 男の子のつぶやき: 友達でないといたずらもできないよや〜、だからごんは兵十を友達と思っている。
 ケイカ: ごんは自分の友達のおっかあを死なせてしまったと思っている。だから友達
 ト: P39に「おれと同じ一人ぼっち」って書いてあるから...友達?

[子ども達の学びを探る]

全校校内研修授業の見方



数名の職員で一つのグループの子ども達の対話から「学びを探る」
 「学び」はペアやグループの対話の中でしか成立しない。それぞれのグループでそれぞれの個に、どのような「学び(気づきや変容)」があったか
 右の写真、アクティブラーニングで保障する学びって何だろう。子どもの対話に真剣に聞き入る校長先生である。



T先生お疲れ様でした。予想通りの素敵な授業すばらしい教室の仲間達です。さらに、先生の授業者としての「しっとり感」は感心します。もって生まれたたセンスですか? それとも努力や研究の結果ですか。ともあれT先生の教師姿は絶対に子ども達の「安心」につながっています。子ども達の聴き合う姿や発言にはほんとうに心癒されました。国語の授業って実に深いんですね。ごんのつぐないの置き方まで読んでいるなんて私にとっても初めての学びでした。右の写真、校内研修の様子。先生方の言葉にもだいたい「学び」の視点が宿っててきていることを感じました。
 素敵な授業ありがとうございました。



国頭学びの会ゆい